

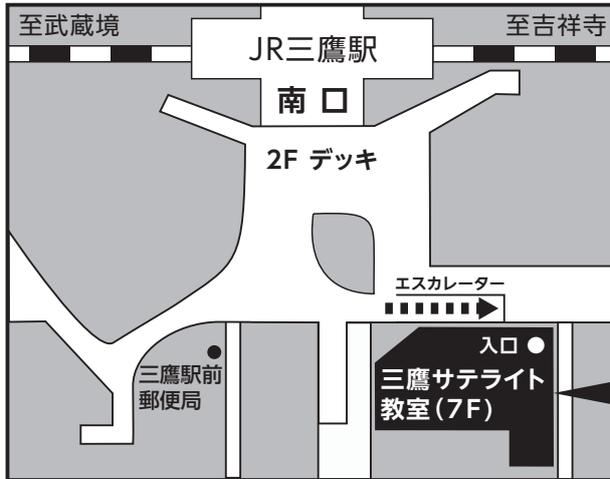
源氏物語

— 主人公光源氏の誕生 —

受講料 (振込額)	12,500円				
必携テキスト	『源氏物語 桐壺 一末摘花 (一)』 [岩波文庫 / 柳井滋 室伏信助等 / 2017年 / 1,584円]				
講座概要	曜日	水曜日		日程	
	時間	13:00~14:30			
	回数	全5回	定員		40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講師	学習院大学名誉教授 神田 龍身 (かんだ たつみ)				
	早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期退学 単著として、『物語文学、その解体』(有精堂出版、1992年)、『偽装の言説』(森話社、1999年)、『源氏物語=性の迷宮へ』(講談社選書メチエ、2001年)、『紀貫之』(ミネルヴァ書房、2009年)、『平安朝物語文学とは何か』(ミネルヴァ書房、2020年)、『神田龍身初期論文集』(学習院大学研究叢書、2021年)、『鎌倉幕府の文学論は成立可能か!』(近刊、勉誠出版)。				
内容	『源氏物語』(一〇〇八年頃成立か、紫式部作、全五十四帖)の第一巻「桐壺」をとりあげる。「桐壺」は主人公光源氏の誕生を語る巻であり、今回はその「いづれの御時にか」で始まる冒頭部から、主人公の母親が亡くなる場面まで連続して読む。そしてここから『源氏物語』とは何かという大問題を一挙に展望することを最終目標とする。とくに次のような諸問題がある点にも留意しておきたい。物語文学の言葉と小説の言葉の違いとは、物語の状況設定のもつ意味とは、平安時代の摂関政治下における天皇制とは、平安時代の宮中のタブーとは、主人公の両親の恋物語から始まる意味とは、物語の主人公の条件とは、臣籍降下とは……である。				
	[持ち物] テキストを持参していただければ、それ以外に注文はありません。 ※テキストを岩波文庫にしましたが、「桐壺」巻全文が収録してあるテキストならば、なんでも可です。小学館新編日本古典文学全集、新潮日本古典集成、岩波新日本古典文学大系、玉上琢彌校注『角川文庫』を既にお持ちの方はそれがかまいません。				
①4月17日：物語の状況設定について ②5月8日：主人公の両親の愛情物語について ③5月22日：主人公の誕生について ④6月19日：後宮の構造について ⑤6月26日：主人公母の死について					



武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。